

## 第 2 学年 美術科学習指導案

2 年 2 組 男子 24 名 女子 16 名 計 40 名  
指 導 者 萩原 至道

【授 業】 13 : 30 ~ 14 : 20 会場 美術科教室 (3 階)  
【協議会】 14 : 30 ~ 15 : 20 会場 美術科教室 (3 階)

### 1 題材名 情報を分かりやすく伝えよう ―「伝えたい」を「伝わる」にするデザイン―

(学習指導要領に関する内容) 第 2 学年及び第 3 学年

- A 表現 (2) イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
- B 鑑賞 (1) ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。
- 【共通事項】 (1) ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。  
イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

### 2 題材について

#### (1) 題材設定の趣旨

私たちは様々な情報を利用して生活を営んでいる。その中には複雑な内容やイメージしづらい物事の仕組みなど、文字や音声では伝え（伝わり）にくいものも多々ある。そのような事柄を把握・整理し、視覚的な表現で多くの人々に分かりやすく伝えるグラフィックデザインをインフォグラフィックスという。インフォグラフィックスはダイアグラムやグラフ、ピクトグラムなど様々な表現で構成されるが、それらの最大の目的は「伝えたいメッセージ」を「伝わるメッセージ」にするところにある。つまり、見る人や使う人の立場に立ち、その人にとってより分かりやすく、使いやすいもので、より心地よいと感じられる最良の形や色彩、構成を見つけ出すことが最も重要である。

本題材では、デザインやインフォグラフィックスについて整理した上で、インターネット上（SNS や個人ブログ、ニュースサイトなど）で間違いやすいと話題になっている、エレベーターの開閉ボタンのピクトグラムについて考察していく。ピクトグラムで何を伝えたいのか、誰に伝えたいのかを明らかにし、伝えたい相手を見据えた上で、そこで何が問題となっているのか捉える。形や色彩、構成などの造形的な要素を視点に問題点を洗い出し、使用する多くの人にとってより分かりやすく心地よいピクトグラムにするためにはどう改善すべきかを考え、「伝わる」ピクトグラムの構想を練っていく。私たちの身近に存在するデザインの問題点を取り上げることで、生徒に課題に取り組む必要感をもたせるとともに、それらの問題を解決していく学習を通して、目的や条件などを基に、他者や社会に形や色彩などを用いて美しく分かりやすく伝える生活や社会の中でのデザインの働きについて気付かせたい。

#### (2) 生徒の実態

生徒は、1 年時に自分の思いや気持ちを漢字一文字の絵文字に表す活動を通して、自分の思いや気持ちから表したいイメージをもち、それを表すためには、漢字の書体や絵文字の形、色彩、大きさや配置といった構成などを表現意図に合わせて工夫することが大切であることを学んだ。また、2 年時では自分のことを知らない相手に、伝えたい「自分」が伝わる名刺のデザインを考えて制作した。この題材を通して、伝えたい内容を明らかにした上でそれが分かる・感じられるように、人が共通に感じる形や色彩の美しさや感情効果に注目して、文字や絵、それらの形や色彩、構成などを工夫する必要があることを学んでいる。

本学級の生徒は美術の授業に意欲的に取り組む生徒は多く、楽しんで表現活動に取り組んだり、自分の考えをもって鑑賞活動をしたりする姿が見られる。しかし、考えをもっていても積極的に発表しない生徒が少なくない。気付いたことや感じたことを自由に発表できるよう、学習形態の工夫や受容的な雰囲気づくりなど、互いに話し合い、深め合える授業展開にしたい。

#### (3) 指導の構え

本題材では、伝えたい内容を多くの人に伝えるために、形や色彩、構成などの造形がもたらす効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練る発想や構想の能力を育成すべく、次のような手立てを講じたい。まず、実際に目にする身近なデザインを取り上げ、そのデザインを多くの人々が分かりにくいと感じている実態を紹介する。「伝えたい」情報を「伝わる」情報にするには、デザインを作る側の思いや意図だけでなく、使用する相手を見据えることが情報伝達デザインの始点となることに気付かせ、その視点をもって課題を考えさせるようにしたい。第 1 時の個人でより分かりやすいエレベーターの開閉のピクトグラムを考える際には、誰に何を伝えたいのかといった目的や条件を明らかにして、すでにあるピクトグラムに見られる問題点を捉え、それをどう改善すべきか考えた上で、より分かりやすく心地よいピクトグラム案を探るようなワークシートの

構成を工夫したい。また、問題点や改善点について探っていく際には、ピクトグラムの形や色彩、構成など造形的な要素を視点に考えさせ、造形の感情効果に気付かせるとともに、それを生かしてピクトグラム案を考えていけるようにしたい。第2時では、第1時で考えた個々のピクトグラム案のうち、数名の案について全体で意見交換し、より多くの人に伝わるピクトグラムにするためにデザインを練り合う。まずピクトグラム案の制作者の話聞き、何を問題点と感じ、どのように改善を試みたのか知り、聞き手はそのデザイン案について気付いたことや疑問に思うことなど自由に意見を出す。その際、様々な生徒の意見から造形的な要素に関わるものを拾い上げ確認することで、造形的な要素とその効果について意識させることができる。そして、意見交換後に再び個々でピクトグラム案考える時間をとり、意見交換で確認した形や色彩、構成などの造形の性質や感情の効果を生かして、より分かりやすく心地よいデザインにまとめていけると考える。

### 3 教科の本質に迫る授業づくり

多くの人に分かりにくいと感じているピクトグラムについて、その問題点とそれをどう改善すべきかを造形的な視点で考えさせることで、造形やその効果に対する客観的な見方や捉え方をもって表現の構想を練ることにつながる。

造形的な視点とは、美術科ならではの視点であり、教科で育てる資質・能力を支える本質的な役割を果たすものである。多くの人に分かりにくいと感じているピクトグラムについて、造形的な視点を軸に、『なぜ「伝えたい」ことが伝わらないのか』、『それをどう改善すれば「伝わる」のか』という「問い」を個人や全体の場と重ねて考えさせることで、人が共通に感じる形や色彩、構成などの感情効果や美しさに気づき、「伝わる」デザインの表現の構想を練る際には、それらを生かすことができるのではないかと考える。

### 4 題材の目標

- 「伝えたい」情報をより多くの人に「伝わる」情報にすることに関心を持ち、主体的に構想を練っている。(美術への関心・意欲・態度)
- ◎「伝えたい」情報をより多くの人に「伝わる」情報にするために、形や色彩、構成などの効果を生かして分かりやすく、心地よいピクトグラムの構想を練っている。(発想や構想の能力)
- 形や色彩、構成などの特徴や印象、デザイナーの意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(鑑賞の能力)

### 5 全体計画 (全2時間)

時	学習活動	評価規準 [共通事項]	配時
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフォグラフィックスの目的や必要な条件などについて学ぶ。</li> <li>○「エレベーターの開閉のピクトグラム」のデザインについて探る。</li> <li>○開閉のピクトグラムの問題点とどう改善すべきか個人で考える。さらに改善したピクトグラムのアイデアを練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩、構成などの特徴や印象、デザイナーの意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。 【鑑賞の能力】</li> <li>(観察・発言内容・ワークシート)</li> </ul>	1
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々のピクトグラム案について、気付いたことや疑問に思うことなどを意見交換する。</li> <li>○意見交換を生かして自分のピクトグラム案を制作する。</li> <li>○「伝えたい」を「伝わる」デザインにするために大切なことは何かまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝えたい」情報をより多くの人に「伝わる」情報にすることに関心を持ち、主体的に構想を練っている。 【美術への関心・意欲・態度】</li> <li>(観察)</li> <li>・「伝えたい」情報をより多くの人に「伝わる」情報にするために、形や色彩、構成などの効果を生かして分かりやすく、心地よいピクトグラムの構想を練っている。 【発想や構想の能力】</li> <li>(観察・発言内容・ワークシート)</li> </ul>	2 / 2 (本時)

### 6 本時の学習 (2 / 2 時間)

#### (1) 指導目標

多くの人に分かりにくいと感じているピクトグラムの改善案の検討を通して、問題点やそれをどう改善すべきかを造形的な視点で考えることで、形や色彩、構成などによる効果に気付けるようにする。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応 (配時)	指導上の留意点
<p>1 前時までの振り返りをする。(2) <b>全体</b></p> <p>2 学習課題を確認する。(1) <b>全体</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフォグラフィクスの目的と5つのキーワード、ピクトグラム3条件について掲示し、(私が)「伝えたい」を(みんなに)「伝わる」にすることを意識付ける。</li> </ul>
<p>より多くの人にとって分かりやすい開閉のピクトグラムにするには、どのような改善が必要だろうか</p>	
<p>3 自分のピクトグラム案について、問題点を改善するためにどのように工夫したか整理する。(5) <b>個人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三角形だと方向性が分かりにくいので、矢印で表す。</li> <li>線が何を表しているのか分かりにくい。「開」は線2本で間をあけて表す。</li> <li>同じ色で紛らわしいので、「開」は明るく、「閉」は暗くする。</li> </ul> <p>4 個々のピクトグラム案について、気付いたことや疑問に思うことなどを意見交換する。(15) <b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三角形から矢印に変えると方向性が分かりやすくなった。</li> <li>分かりやすいが少しシンプルさに欠けるかも。</li> <li>矢印にしたのはよいが、それ以外に工夫点が見られない。思い切って矢印だけにするのはどうか。</li> <li>矢印に加え、扉が開く、閉まる状態を取り入れてみるとより直感的に分かるのでは。</li> <li>扉と扉の間隔を広げると「開」が表れるのでは。</li> <li>色を変えて違いが分かってよい。</li> <li>色で「開」「閉」まで表せていないと思う。</li> </ul> <p>5 意見交換を生かして自分のピクトグラム案を制作する(15) <b>個人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三角形では方向性が分かりにくく、矢印では全体の形がガタガタになるので、「くの字」型にするとシンプルかつ方向性も分かりやすくなる。(形)</li> <li>一色で分かりにくいので、「開」は明るい色、「閉」は暗い色にすると直感的に分かる。(色彩)</li> <li>「開」は真ん中に隙間を作ってドアが開いている状態を表し、「閉」は隙間を一切作らず線で表し、閉じた状態を表す。(形、図形の配置)</li> <li>ドアだけではどのような状態か分かりにくいので、人のピクトグラムを入れ、「開」は隙間に人が移動している様子を表し、「閉」は人が見えず閉じた状態を表す。(形、図形の配置)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピクトグラムのアイデアスケッチ以外にも、何をねらってどう工夫したか言葉でメモさせることで、分かりやすくするためのアイデアを明確にさせる。</li> <li>2、3名のピクトグラム案を取り上げ、それぞれの案について制作者の工夫点などを聞いた上で、気付いたことや疑問に思うことなどを基に意見交換させる。</li> <li>生徒の意見で何を問題と捉え、どう改善すればよいか明確でないものには、適宜問い返し、意図が明確になるようにする。</li> <li>生徒の意見から造形的な要素に関わるものを拾い上げ確認することで、造形的な要素とその効果について意識させる。</li> <li>随時気付いたことや考えたことなどをワークシートにメモして、この後の「伝わる」ピクトグラム作成のヒントとする。</li> <li>意見交換で確認した造形やその効果を視点に、ピクトグラム案を考えさせる。ワークシートにはアイデアスケッチ同様、何をねらってどう工夫したのか言葉でメモさせ、生徒の思考の跡を残るようにする。</li> <li>グループの形式で制作させ、適宜「伝わる」ピクトグラムか確認したり、アドバイスしたりしてアイデアを練り合っても良いことを伝える。</li> <li>制作の様子やワークシートへの記入を把握し、意図的指名に生かす。</li> </ul> <div data-bbox="786 1615 1390 1783" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「伝えたい」情報をより多くの人に「伝わる」情報にすることに興味をもち、主体的に構想を練っている。 【美術への関心・意欲・態度】 (観察)</p> </div> <div data-bbox="786 1805 1390 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「伝えたい」情報をより多くの人に「伝わる」情報にするために、形や色彩、構成などの効果を生かして分かりやすく、心地よいピクトグラムの構想を練っている。 【発想や構想の能力】 (観察・発言内容・ワークシート)</p> </div>

<p>6 本時のまとめをする (10) <span style="float: right;">全体</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2, 3名のピクトグラム案を取り上げ、それぞれの案について制作者がどのような造形の要素とその効果を生かして制作したか紹介させる。</li> <li>・ 形や色彩、それらの構成によって印象やイメージの捉え方が変わるため、より多くの人に分かりやすい形や色彩、その構成を吟味することが大切であることを押さえる。</li> </ul>
<p>7 エレベーターの開閉のピクトグラム問題のその後を聞く。(2) <span style="float: right;">全体</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット上でも分かりにくいエレベーターの開閉のピクトグラムに対する様々な解決案が示されていることを紹介する。</li> </ul>

## 7 授業観察の視点

- ・ 分かりにくいピクトグラムについて、その問題点とどう改善すべきかを造形的な視点で明確にしてピクトグラム案を考えさせたことは、形や色彩、構成などによる効果に気付かせるために有効であったか。

### 〔参考文献〕

- ・ 木村博之『インフォグラフィックス 情報をデザインする視点と表現』誠文堂新光社 2010
- ・ 『デザインノート No. 73 インフォグラフィックとサインデザイン。』誠文堂新光社 2017

### 〔資料〕



一般的なエレベーターの開閉のピクトグラム



とあるブログにて・・・

『開くボタンと閉じるボタンが間違いやすい。写真でもわかるとおり、「ひらく」ボタンと「とじる」ボタンが、逆に見える。』

第1時に生徒に提示した資料  
「とあるブログにて・・・」

「気になるアレを大調査！」するニュースサイト、「しらべえ」では・・・



しらべえ編集部では、全国20～60代の男女1,365名に「エレベーターのボタンについて」の調査を実施。63.2%もの人が開けるボタンと間違えて、閉めた経験があると回答した。  
(2017/01/15の記事)

第1時に生徒に提示した資料  
『「しらべえ」では・・・』